

カトリック六甲教会 教会報

2011

3

No.471

内面の成長を

コリンズ神父



今年も復活祭前の準備期間、四旬節が巡ってきます。「準備期間」といいますが、一体、何の、どのような準備をすればいいのでしょうか。

「四旬節をどのように過ごしたらよいのでしょうか」とよく聞かれます。と同時に、四旬節中は「映画を観ません。」「欲しい買い物を控えます。」「特別な祈りをします。」等ということもよく耳にします。「好きなことを我慢する」それはそれで良いでしょう。しかし、そこに心の準備が伴わなければ、それは表面的・形式的な、ともすれば義務的な準備でしかありません。

四旬節に限らず、待降節においても、教会の動きは毎年同じことの繰り返しです。組織としての教会が、目に見える行事などを行うことによって、準備するしかないのは仕方がないことですが、ここに司祭を含め信徒が、繰り返される動きに慣れてこになり、形式的な四旬節におちいってしまう危険性があります。

言うまでもなく四旬節はイエス・キリストの復活をふさわしく迎えるように、キリストの受難と死を黙想し、犠牲・罪の償い、回心へと導かれる「心」の準備期間です。復活のキリストに出会うために、一人ひとりの心の準備が大事と感じています。

この機会に「祈りの生活」を振りかえってみるのはどうでしょうか。去年の四旬節の祈りと、今年の四旬節の祈りに違いはあるのでしょうか。内面的な成長があったなら、去年と祈りは違っているはずですが、実際にはほとんど何も変わっていないと言う人が大半でしょう。

祈りにも成長が必要です。そのためには一度立ち止まり、振りかえって、繰り返される祈りを新しい目でみていく必要があります。四旬節は自分を振り返り、内面的な成長をする良い期間です。そういった準備は、我々の内面的成長となり、心から復活のキリストを迎えることができるのです。

一人で祈るのもよいですが、キリストの復活を待つ準備期間ですから、皆と一緒に祈ることも良いことだと思います。聖書の分析や勉強をするのではなく、皆が集まって沈黙のうちにただ祈る。それだけで十分に、内面的な成長があるのではないかと思います。

今年の四旬節は、「〇〇をします・しません」といった外面的・否定的な準備ばかりではなく、祈りを通して自己を振りかえり、内面の成長を促す積極的な心の準備をしてみたいかがでしょうか。こういったことが四旬節・待降節といった特別な期間だけでなく、日常的に、自然にできるようになることを願います。





聖書は、神が私たちの救いのために記録されることを望んだ真理を堅く、忠実に、誤りなく教えるものである。

(1) 聖書の無謬性の概念：

「聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです」(2 テモテ 3:16-17)。この確信ゆえにマルキオン派から問題が起こった。イエスの与える神は、旧約の神と全く違う。したがって、旧約の神は、別の悪い神だとした。このマルキオン派の問題に対して教会は、対抗するために「神に相応しい」聖書解釈方法について考えざるを得なかった。その解決方法に関してオリゲネスは、「諸原理について」第四巻に詳細に記述している。

* 聖書には二通りの意味がある。①文字通りの意味 ②霊的な意味（聖霊がおもに目指す意味）。これには三つの意味が入る。①比喩、譬えの意味（詩的表現）②キリストの出来事との関係によって発見出来る書の意味（この意味を探るのが正しい意味とデュ・リュバック師は言う）。③聖書の語る話を比喩的に解釈することによって得られる意味。すべての箇所に文字通りの意味があるとは限らない。無理なところがあるという。例えば、神が楽園を散歩した。70人訳聖書で動物の名の中には、伝説的で実存しない動物もいる。これらは私たちが、いつでも霊的な意味を探すようにと言う神からの方法であり、オリゲネスたちは、旧約聖書の不完全なところを「神に相応しく」説明しようとした示唆であるという。何故なら古代人に進歩・発展という考えはない。古いものに黄金時代があったと考えた。だから「古いですから、当然不完全です」という説明で旧約聖書を弁護することが出来なかった。

(2) 教父たちの解釈：

教父たちの解釈が忠実に受け継がれる。それによれば聖書には、四つの意味がある。

①SENSUS LITTEALIS：文字通りの意味、本来もとの意味。

②SENSUS SPIRITUALIS(CHRISTOLOGICAL)：キリストに関係して理解する。

③SENSUS TROPOLOGICUS, MORALIS(EXISTENTIAL)：聖書が私たちの道徳を教えている。

④SENSUS ANAGOGICUS(ESCHATOLOGIC)：将来、永遠の命、私たちの目標と関係する意味。

このようにして聖書全体を中世の信仰・宗教生活に使うことができた。しかし、プロテスタントのルターたちは、この様な解釈を好まなかった。SOLA SCRIPTURA という原理を立て、SENSUS LITTEALIS だけを認めた。次第に多くのプロテスタントの間で、靈感思想がなくなる（主観的解釈）。

(3) ガリレオが提起した問題：

16世紀において振り子と落体の法則を発見し、手製の望遠鏡で木星の衛星や土星の輪を発見していた天文学者ガリレオ・ガリレイは、彼のコペルニクスの体系支持（地動説）に対する反対派から聖書を引き合いに出して非難したことに対し、書簡で自然科学と啓示との間に矛盾はあり得ないと主張。つまり、自然科学の明白な成果に聖書のいうところを対置させることは出来ない。聖書は、救済の問題においてのみ権威である。聖書の表現は学問的ではなく、通俗的なのだと主張。これに対して当時の教理聖省は、ガリレオに撤回することを要求。ガリレオはコペルニクスの説が誤りであり聖書に反すると誓言させられることになった。

19世紀に入ってダーウィンの進化論が発表される。これにはカトリックもプロテスタントからも排斥すべきであると激しく論争された。しかし、カトリックの神学者ニューマンは“そうではない”という。ピオ12世は、1952年DS3896「最初の間は、すでに生きた生き物から神の力が働いて創られたと言っても良い」とした。しかし、人祖はいつではなく、多くのアダムとイブがいたと言ってもはいけない。何故ならどのように原罪の教理と調和させてよいか分からないから。現代においては、聖書は自然科学のことを教えていないと認めている。

(4) 19世紀から20世紀の前半まで、聖書解釈について教皇庁は、極めて狭い見方：

- ①歴史学における衝突。聖書学の開拓者と言われるドミニコ会ラグランシュは、聖書には、誇張があり、そのままの出来事を書いていない。歴史書には見えるも、場合によって歴史の出来事を書いていないと述べた。その為に非難された。
- ②聖書の中に記者たちは、他の人の書いたものを引用しており、それは現実そのままであったとは言い切れないと言う人も非難された。
- ③今世紀の初めモダニズムとの争いがあり、教皇庁聖書委員会の極めて保守的で誤った教令が多く出され、それに従わない学者が、不従順、軽率の汚名と大罪を免れないとされた(DS3503)。

1943年、ピオ12世の「ディヴィノ・アフランテ・スピリトゥ」(カトリック解釈の解放令)による問題解決が見られた。聖書の中には特別な話法や慣用語、誇張した表現、逆説などが使用されている(DS3830)。著者の性格、生活環境、時代、使用した書物、口伝の出所、表現形式を考慮に入れて解釈しなければならない。そこで聖書の解釈の最高の法則は、著者が何を表現しようとしたかを発見することである。「聖書には文学類型があるので、それを調べ、古代人の用いたいろいろな型を調べ、それらを念頭において聖書を解釈すべきである」(DS3825～)。

(5) 第二バチカン公会議以降：1964年教皇庁聖書委員会の通達

- ①解釈に際しては慎重を要するが、歴史的方法を使用しても良い。その方法は、文章批判、文学類型批判、源泉批判である(DS3999)。
- ②解釈者は、編集史的方法が許される(DS3999)。
- ③解釈者は、福音書の起源と編集に関するすべての事柄、また最近の研究によって発見された事柄を正しく理解しなければ、聖書記者が何を言おうとしているか探究することが出来ない。

また第二バチカン公会議の「啓示憲章」19項は、福音書の成立について、次の三段階を認めている。①歴史上のイエス自身と彼を囲む弟子たちとの出来事。②それについての初代教会の考察。③福音記者の神学的見方。その他；「救いの観点から見べき」「全体を見る」「信仰の類似を考える」「同じ信仰へ私たちが全聖書が導いている」と。

主任司祭 松村 信也

~~~~~

**事務所よりお知らせ**

- ・3月末まで、名簿整理のため、毎週水曜日・木曜日の通常業務は、15：30までとさせていただきます。15：30以降、お急ぎの方は用件を留守電にお入れください。
- ・3月6日(日)11：30 「信徒会館お披露目パーティ」を信徒会館の1階ロビーで行います。多くの方の参加をお待ちしております。事務所も新しくなりました。



## 〈行事報告〉

### 聖体授与の臨時の奉仕者研修会

2月11日、次年度“聖体授与の臨時の奉仕者”のための研修会が開催。数名の欠席者はあったが、祭日にもかかわらず、朝11時の“沈黙のミサ”から始まり、午後3時までの4時間（昼食時間：15分も含め）、熱心な祈りと分かち合いの時間を過ごした。

特に、「聖体に対する意識の強化」、「何故、臨時の奉仕者であるのか」と言った基本的な話に参加者は、熱心に聞き入ると同時に、質疑応答が盛んに飛び交った。

現在の聖体奉仕者の自覚と責任感に圧倒される研修会であったこと、また次年度からの新たな信徒使徒職に向けて、充実した研修会を過ごせたことに感謝する。

いろいろな研修会に参加して感じることは、ここ六甲教会において明日の教会の先取りをした活動、研修会、黙想会を実践していることに、“希望の光”を感じる。これからもどんどんこの様な研修会、錬成会、黙想会の機会を作り、大勢の信徒の方々に参加して戴けることを期待する。



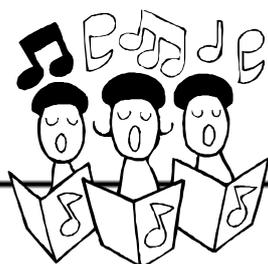
研修会に参加したウドの大木より



### 聖歌隊が新たに発足

このたび新たに聖歌隊が発足する予定で、新聖歌隊は典礼部に属することになります。通常のみさに加えて結婚式や葬儀の際などに聖歌隊を、というご意見に応えました。従来、結婚式や葬儀にはその都度、有志が集まって聖歌を捧げてきましたが、あらためてこれら奉仕者の方々にも呼びかけて再結成することになりました。結婚式当事者やご遺族の要望にきちんと対応できるように、機動性の高い聖歌奉仕隊をめざします。六甲教会には有志の音楽団体として混声合唱団や聖歌研究会などがありますが、それらとは別の、典礼奉仕のための聖歌隊になります。新しい聖歌隊の練習は、隔週日曜日に10時ミサ後11時～13時と、毎日曜日9時～9時半（但し第2日曜は除く）を予定しています。場所はいずれも大聖堂が基本です。聖歌隊で歌ってみたいという方は、どうぞいつでも練習を覗いてみて一緒に歌って下さい。ご自分が参加できる時間帯だけでも歓迎です。お待ちしております。また、通常のみサでの答唱詩篇の独唱者もこの際広く募りたいと考えています。さらに、ことし6月5日に神戸海星女子学院で開催されるカトリック大阪司教区神戸地区大会では、六甲教会のイベント演目として聖歌隊が中心となり歌を披露する予定です。したがって正式に発足するのは新年度からですが、練習は地区大会に備えて3月から始めることにしています。

（典礼部）







## 各部だより

### ☞壮年会

壮年会総会

1. 日時:4月3日(日)11:15~12:30
2. 場所:第1・2会議室
3. 内容:2010年度実績報告、2011年度運営方針&行事内容の決定

### ☞婦人会

2010年度婦人会総会を4月1日、初金曜日ミサ及び十字架の道行の後、開催致します。  
 新年度より新婦人会へと移行するため、現婦人会解散のための総会となります。皆さま、ご出席下さい。

### ☞典礼部

3月19日(土)10時~ 典礼部会(第4会議室)

### ☞教会学校

3月 5日(土) 大掃除  
 12日(土) 終業式&卒業式&プチトマト公演  
 卒業合宿

新しく1年生になるお友だちがいたら、是非お誘いください!

4月 9日(土) 入学式&始業式

### ☞広報部

4月2日(土) 教会報4月号を発行します。  
 10:00頃からページの組み合わせをします。  
 お手伝い下さい。



## <<お知らせ>>

### ★社会活動部より★

3月2日(水) 10:00 手芸の集い(第1・2会議室)

どなたでも参加ご自由です。

3月12日(土) 10:00 炊き出し(イグナチオお台所) 毎月第2土曜日

小野浜グラウンドにて配食や、おじさんたちとのお話し相手だけでもOKです。

3月17日(木) 14:00 ベタニアの集い(イグナチオホール) 奇数月第3木曜日

聖体拝領式と茶話会

3月20日(日)10時ミサ後 ミニバザー(イグナチオホール) 第3日曜日10時ミサ後

無農薬野菜・手づくりコーナー・手芸品等

### 手芸のグループからお誘い

★ 手芸のグループは毎月 第1水曜日 10時~14時

★ 第1・2会議室で 集まっています。

縫い物、編み物などで小物などを作りチャリティーバザーやミニバザーで、信徒の皆様にご協力していただいています。  
 売り上げはすべてチャリティー献金しています。

★ どなたでも参加はご自由です。ほぼ1日で出来上がります。  
 お好きな方はもちろん、苦手な方も丁寧にお教えします。  
 ぜひご参加ください。



## 図書室より お知らせ

3月6日に信徒会館は新しくなってオープンしますが、図書室は図書整理と貸出し準備のため、3月31日まで閉室します。開室及び貸出し開始は4月1日の予定です。

また4月から本の借出しには **図書利用者カード** が必要となります。

図書をご利用される方は;

- ① 図書利用者カード申込みを教会事務所にて申請して下さい。(3月5日より)
- ② 今回よりお申込みの際、図書の保安全管理ならびに連絡にかかる諸経費として、¥100程度の献金をお願いします。
- ③ また図書の貸出の際には、教会事務所カウンター備え付けノートに下記要領で記入して下さい。
- ④ 返却の際はノートに済印を押し、ご自分で元あった場所に借りた本を戻して下さい。

| 書名      | 著者名   | 利用者カード No. | 借出日 | 返却予定日 |
|---------|-------|------------|-----|-------|
| キリスト教入門 | 六甲 桃子 | 0001-1     | 3/7 | 3/21  |

※ 詳細は、**受付事務所前、図書室に掲示の「利用のしおり」**を良くお読み下さい。

皆様のご利用をお待ちしております。

### 【注記】

- \* 禁帯出シールの貼られた本は図書室内での閲覧のみ可能です。
- \* 視聴覚資料の棚は1階ホールに移動します。こちらのCDやテープ等も4月より貸出しいたします。  
**貸出・返却要領は、「利用のしおり」をお読み下さい。**





# みんなの広場

## 習慣

習慣にも色々ある。飲んだくれて「トラ箱」のご厄介になるのも多くは習慣の果てではないか。「菓」、  
「たばこ」なども恐らくその類であろう。

昨年バザーを覗いた。ちょうど正午、「お告げ」の鐘が鳴った。だが手を止めて祈っている姿は見な  
かった。もっとも焼き鳥を焼きながらでも祈れないことはないだろうから祈っていないとは即断できない  
が。集まりがあって食事が出ることがある。「食前の祈り」「食後の祈り」をする姿は見ない。ミレーの  
「晩鐘」は知っているが、農夫が何をしているのかを知らない信徒がいた。どういうことか。平日も信  
徒が何かと教会へやってくる。だが聖櫃の前に跪く姿を見ることはない。聖体の秘蹟が何かは信じてい  
るのだろうか。

「朝の祈り」「夕の祈り」「食前の祈り」「食後の祈り」「始業の祈り」「終業の祈り」「お告げの祈り」  
「アレルヤの祈り」等々。これらは言うなれば習慣的な祈りというよりは行為と言った方が適切かも知  
れない。かつて「公教会祈祷文」という小さな本があった。そこには待降節、降誕節、四旬節、復活節  
などの季節の祈りや色々の祈り文が収められていて、集まりがあるとよくその中のどれかが口をそろえ  
て「唱え」られた。形式的と言えそうだが、しかしそれがなくても同じようなことを祈れるだろうか。

習慣というと何か形だけの無意味なものと思われるようだが、我々の先祖切支丹が、牧者を失ったに  
もかかわらず信仰の最後の埋もれ火を保つことができたのには、摂理の中で信徒たちの希望と共に習慣  
があったからではなかったか。天国に入りたければ「習慣」の威力も知っておいた方がよいのではない  
か。「聖人伝」を読んでこんな事も考えた。

この小教区はかつて多くの司祭たちに恵まれていた。今は動き回れるのは主任司祭 1 人。我々は自分  
で自分の信仰を守り生きなければならぬ。それはせいぜい 100 年の地上の命の問題ではない、「永遠」  
の問題なのである。我々はその切実さをどこまで身を感じているのだろうか。

(三好)



### 教会学校劇団プチトマト公演のお知らせ

日時: 3月13日(日) 11:15~ (10時ミサ後)  
会場: イグナチオホール  
演目: 「こだま荘のお宝」



教会報4月号の発行は、4月3日(日)です。  
編集会議は3月27日(日)です。  
記事原稿は、3月20日(日)正午までに信徒会館  
受付へご提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

|   |          |   |   |   |   |   |   |   |   |        |   |   |   |   |
|---|----------|---|---|---|---|---|---|---|---|--------|---|---|---|---|
| カ | ト        | リ | ツ | ク | 六 | 甲 | 教 | 会 |   |        |   |   |   |   |
| 〒 | 657-0061 | 神 | 戸 | 市 | 灘 | 区 | 赤 | 松 | 町 | 3-1-21 |   |   |   |   |
| 電 | 話        | 0 | 7 | 8 | - | 8 | 5 | 1 | - | 2      | 8 | 4 | 6 |   |
| F | A        | X | 0 | 7 | 8 | - | 8 | 5 | 1 | -      | 9 | 0 | 2 | 3 |
| 発 | 行        | 責 | 任 | 者 | 松 | 村 | 信 | 也 | 神 | 父      |   |   |   |   |
| 編 | 集        | 広 | 報 | 部 |   |   |   |   |   |        |   |   |   |   |